

## 日本語の無生物主語の他動詞文について

Lina abd Elhameed Ibrahim Ali\*

[linaali59@hotmail.com](mailto:linaali59@hotmail.com)

### 要旨

本研究では、日本語の無生物主語の他動詞に焦点を当て、考察を行った。具体的に、日本語の無生物主語の他動詞文として、どのようなものが自然であるのか、シルバースティーンの名詞句階層による分析が無生物主語の他動詞文の自然さを説明するのに、常に有効なのかを検討した。その結果、日本語の他動詞文の無生物主語が自然現象である場合、文が成り立つことが多い。しかし、名詞句階層では、無生物主語他動詞文の自然さを説明するのに、全ての場合において有効とは言えないことが分かった。また、無生物主語の他動詞文の述語が有対他動詞である場合、日本語では、状態変化を引き起こされた対象が文の主語になりやすいが、引き起こし手は主語になりにくいことが分かった。

**キーワード：**無生物主語、他動詞、有対他動詞、無対他動詞、自然現象

---

\* Faculty of Arts, Cairo University.

## 1. 本研究の目的

日本語の他動詞文の主語が人間や動物である場合、自然な文であるが、主語が無生物である場合は、文が不自然、または翻訳調であるという指摘が多く見られる。それに対して、アラビア語の他動詞文は、一般的に主語が人間であっても、動物であっても、無生物であっても文が自然であることが多く観察される。従って、アラビア語を母語とする日本語学習者がよく日本語の自動詞文を、他動詞にする傾向がよく見られる。例えば、以下の誤用例が挙げられる。

1. ボールがガラスを割った。
2. 風がドアを開けた。

これらの文では、アラビア語の特徴から影響を受け、日本語の文でも無生物名詞を主語にするという語用論的転移が生じている可能性が高いと考えられる。従って、本研究では、まず日本語の無生物主語の他動詞文の特徴を観察し、明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究と問題点

日本語の他動詞は、有対他動詞と無対他動詞に大別される。有対他動詞は、動詞の対応を持つ動詞のことであ

り、「落とす」「壊す」「流す」などのような動詞で、それに対応する自動詞があり、それぞれ「落ちる」「壊れる」「流れる」である。また、以下のような例も挙げられる。

3. 「電話をかける」 「電話がかかる」
4. 「授業を始める」 「授業が始まる」
5. 「ドアを開ける」 「ドアが開く」

一方、無対動詞には、対応する動詞が見られず、使役形を他動詞の代用として用いる自動詞と、受け身形に対応する自動詞の代わりに使う他動詞がある。

無生物主語とは、「ドア」、「風」、「鍵」などのような名詞であり、生物でない名詞を指すものである。日本語の無生物主語は、英語やアラビア語と比べ、その数は限定的である。

日本語の無生物主語に関する先行研究は、数多く行われてきた。そのうち無生物主語の他動詞文が不自然と論じる研究として、妹尾（2006）、金田一（1981）が挙げられる。しかし、主語が無生物でも自然な文があると指摘した研究も、斎藤（2003）、熊 鶯（2009）、角田

(2009) など数多くある。しかし、先行研究では日本語とアラビア語の無生物主語の他動文の比較研究は管見の限りない。従って、アラビア語母語話者の日本語学習者に、日本語とアラビア語の無生物主語の他動詞についてそれぞれの違いと、使用条件を明確にし、アラビア語と日本語両言語の違いを解明することに意義がある。そこで、本研究では、日本語の無生物主語の他動詞に焦点を当て、以下の2点を研究課題とする。

### 3. 研究課題

- ① 無生物主語の他動詞文の述語が、有対他動詞である場合を中心に、日本語の特徴を考察し、明らかにする。
- ② 角田 (2009) におけるシルバースティーンの名詞句階層を引用して、日本語の無生物主語の他動詞文には、どのようなものが自然であるのかを検討する。

### 4. 考察

まず、熊鷹 (2009) の述語が有対他動詞である例文を引用する。アラビア語に翻訳し、日本語とアラビア語の違いを観察する。

6. \*ボールが窓ガラスを割った。 (熊 鶯 2009)

6`. كسرت الكرة زجاج الشباك  
割った ボール ガラス 窓

7. \*台風が桜の枝を折った。 (熊 鶯 2009)

7`. كسرت الرياح فرع الساكورا .  
折った 風 枝 桜

では、なぜ以上のような例文は、同じ意味を持つ文であるにも関わらず、アラビア語として自然で、日本語では、不自然な文であるのかを検討する。熊鶯（2009）は、例7について、状態変化の引き起こし手である無生物名詞の「台風」を主語にする他動詞表現より、状態変化を引き起こされた対象である「桜の枝」を主語にする自動詞表現の方が自然に思われると述べている。つまり、日本語では、

主語である状態変化の引き起こし手よりも、目的語である状態変化を引き起こされた対象に焦点を当てた方が自然な日本語になると言える。また、上記の不自然な日本語の例文をアラビア語に直訳してみると、自然な文であることが分かる。つまり、アラビア語では、状態変化を引き起こされた対象より、状態変化の引き起こし手に焦点を当てた方が自然であると言えよう。

上記の例文を自然な日本語にすると、次のようになる。

8. ボールで窓ガラスが割れた。 (熊鷹 2009)

9. 台風で桜の枝が折れた。 (熊鷹 2009)

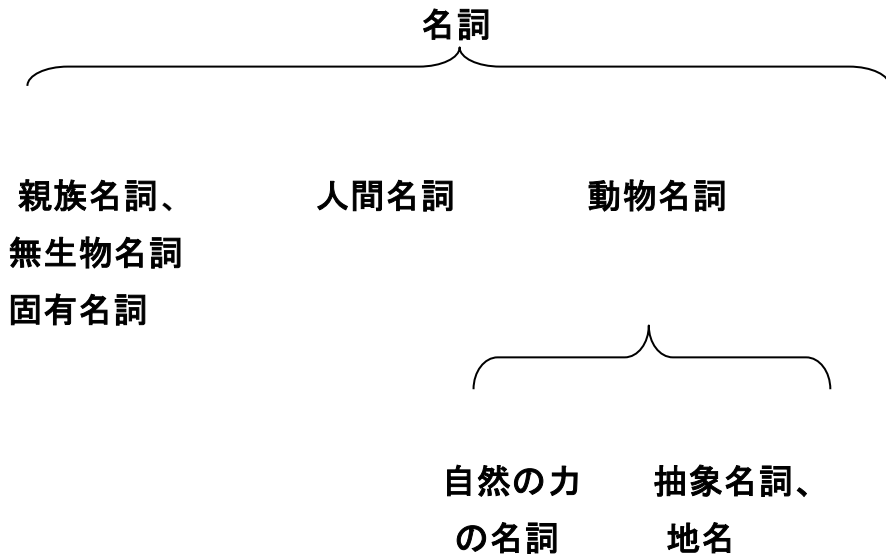
以上で見て来たように、不自然な例文を自然な日本語にするには、他動詞文ではなく、自動詞文に変更する必要があった。

また、角田 (2009) は、日本語の無生物主語の他動詞文であっても、不自然でない文があると述べている。例えば、自然な無生物主語の他動詞文について、シルバースティーンの名詞句階層を引用して、以下のような例文を提示している。

10. 津波が三陸地方を襲った。 (角田 1982)

11. 台風が九州を直撃した。

### 図 1 名詞句階層



以上のような例文は、図 1 が示すように自然の力を表す名詞は無生物名詞の中では、最も高い位置を占めるとされている。一方、目的語は全て無生物名詞であり、しかも自然の力を表していないので、シルバースティーンの階層で自然の力の名詞よりも低い位置を占めている。

無生物名詞の中で地名などは最も低いとされている。言い換えると、自然な無生物主語の文は、必ず主語が目的語より高い方を示すとされている。しかし、熊鷹（2009）によると、名詞句階層に基づいた説が無生物主語他動詞文の自然さを説明するのに、全ての場合において有効とは言えないと指摘し、以下のような用例を挙げている。

12. 台風が A 地区を襲った。

13. ? 台風が窓ガラスを割った。

例 12 と例 13 の主語は「台風」であるが、これは図 1 の示す「自然の力の名詞」であり、目的語は「A 地区・窓ガラス」であるが、自然の力の名詞より階層が低い。階層の説に従えば、両方とも自然な文になるはずである。一方、次の例文を見てみよう。

14. ほこりがテーブルを履っている。

15. ? ほこりがテーブルを汚している。



これらの例文は名詞句階層に基づいた説では、説明できないものであると指摘されている。このようにシルバースティーンの階層で自然の力の名詞や抽象名詞や地名以外の無生物名詞が、階層のどこに入るかは不明な点である。それに、主語と目的語が階層で同じ位置である場合になぜ日本語として不自然な文が存在するのかは言及していない。例えば、「ボールが窓ガラスを割った。」のような例文は主語も目的語も同じ位置を占める抽象名詞なのではないかと考えられる。

以下で、いくつかの例文を提示して日本語とアラビア語を比較する。

16. \*鍵がドアを開けない。

16. المفتاح لا يفتح الباب

17. ドアが開かない。

17. الباب لا يفتح.

例 16 から分かるように、「鍵」が主語になっている日本語の例文が不自然であるが、アラビア語に直訳すると、文が成立していることが分かる。一方、自然な日本語にするには、無生物主語を外し、自動詞文に変えるこ

とが重要である。しかし、自動詞文である例 17 をアラビア語に直訳すると、自動詞構文も自然であることが分かる。

先行研究では、英語と日本語のひとつの大きな違いとして、無生物主語が挙げられ、英語独特の現象と指摘される。

また、無生物主語は、英語から日本語に翻訳することが困難な構文のひとつになっている。しかし、例文が示すようにアラビア語にも同じ現象が存在し、アラビア語から日本語に翻訳する際、文を工夫することが必要とされる。特に、日本語では、物が主語で目的語が人である場合、不自然であることがよく観察される。例えば、以下では、いくつかの英語の例文とその日本語やアラビア語の訳を観察し、その違いを見る。

18. The bad weather made us put off the picnic

19. 悪天候のせいで、私たちはピクニックを延期した。

上記の例では「The bad weather」が主語になっており、英語として自然であるのに対して、自然な日本語にするには、主語を変更することが必要である。以下では、例 18 と例 19 をアラビア語に直訳する。

18 ` .سوء الأحوال الجوية جعلنا نؤجل الرحلة

19 ` .أجلنا الرحلة بسبب سوء الأحوال الجوية.

例 18 と例 19 をアラビア語にすると、どちらも自然な文であることが明らかとなった。つまり、無生物主語の文が成立するが、日本語の自然な文章もアラビア語にすると自然さが落ちないということである。

20. This bus will take you to Tokyo station in 30 minutes.

20 ` . このバスは、あなたを東京駅に 30 分で連れて行く。

上記から分かるように、英語の例の無生物主語を日本語に直訳すると、不自然な文になる。自然な日本語は以下のようなになるだろう。

21. このバスに乗れば、東京駅に 30 分で着く。

一方、例 20 をアラビア語にすると、例 22 のように英語と同様に無生物名詞である「パス」が主語になることは、自然であることが分かる。

22. هذا الأتوبيس سيأخذك إلي محطة طوكيو في نصف ساعة.

23. إذا ركبت هذا الأتوبيس ستصل إلي محطة طوكيو في نصف ساعة.

また、自然な日本語の例 21 をアラビア語に直訳すると、自然である例 23 になる。つまり、無生物主語の構文も、条件表現の構文もアラビア語にすると自然であることが明らかである。

上記で提示したいくつかの例文から分かるように、英語もアラビア語も日本語と比較的無生物主語が成立することが多く、英語独特の現象ではないことが言える。

## 5. まとめと今後の課題

以上をまとめると、次のことが言える。名詞句階層を用いた分析によると、日本語の他動詞文の無生物主語が自然現象である場合、文が成り立つことが多い。

しかし、この分析方法は、無生物主語他動詞文の自然さを説明するのに、全ての場合において有効とは言えない。

また、無生物主語の他動詞文の述語が有対他動詞である場合、日本語では、状態変化を引き起こされた対象が

文の主語になりやすいが、引き起こし手は主語になりにくいことが分かった。つまり、自動詞の方が自然であることが言えるだろう。それに対して、アラビア語は日本語と違って、状態変化の引き起こし手が主語になる方が自然な場合があるため、自動詞より他動詞の方が好まれる。このような違いがあることで、アラビア語母語話者の日本語学習者が「自動詞」と「他動詞」や無生物主語の他動詞の扱い方を学習する際、様々な混乱を起し、学習が困難だと感じる原因のひとつだと思われる。このような違いについて、体系的に整理し、それぞれの特徴の違いを解明する必要がある。

今後の課題として、アラビア語を母語とする初中級レベルの日本語学習者を対象に筆記調査を行う。調査では、様々な場面を取り上げて、絵またはビデオを見せて日本語で説明してもらう。学習者がどういうものを主語として取り立てるかを分析し、学習者の間違いやすい点や母語干渉が生じているか否かを確認する。

また、日本語とアラビア語両言語の無生物主語の他動詞文の類似点、相違点を明らかにした上で、これがどのようにアラビア語母語話者日本語学習者の学習過程に生かせるかを検討したい。さらに、日本語の無生物主語の他動詞文の述語が無対他動詞である場合を考察対象とし、特徴を明らかにする。

### 【主要参考文献】

- 伊藤秀明 (2012) 「学習者は「対のある自他動詞」をどのように使っているか —中国人日本語学習者の中級から超級に注目して—」国際日本研究専攻 筑波大学 *pp.* 43-52
- 熊 鶯 (2009) 「自然現象名詞主語の他動詞文について」学習院大学人文科学論集 18, 125-146, 2009
- 熊 鶯 (2009) 『鍵がドアを開けた』笠間書院
- 影山太郎 (2001) 『動詞の意味と構文』大修館書店
- 小林典子 (1996) 「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況—」文芸言語研究・原語篇 29 卷 P. 41—56
- 斎藤伸治 (2003) 「視点と日本語の無生物主語」岩手大学人文社会科学部紀要 第 72 号
- 妹尾知昭 (2006) 「無生物主語の容認性—独英語の道具名詞主語を対象として—」人文科教育研究 33 *pp.* 69-81
- 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語 - 言語類型論からみた日本語改訂版』くろしお出版
- 守屋三千代 (1994) 「日本語の自動詞・他動詞の選択条件-習得状況の分析を参考に-」『講座日本語教育』 29、151-165、早稲田大学日本語教育研究センター